

□講義科目(専門科目)

科目名	ソーシャルワーク論	2単位
担当者	田中 千枝子(非常勤教員)	
テーマ	ソーシャルワークを理論や方法論として、事例検討やロールプレイなどの実践を通じて理解する	
科目のねらい	<p><キーワード> ①ソーシャルワーク ②実践理論 ③社会福祉方法論 ④マイクロ・メゾ・マクロ実践 ⑤ 専門性</p> <p><内容の要約> ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方や方法を示すソーシャルワーク実践理論やアプローチの基本的知識と支援観(倫理観)を得ることによって、とくにマイクロからメゾレベルの領域のソーシャルワークの専門性の確認を行う。また実践事例を分析し、グループワークにより、コミュニケーションをはかる体験をすることで、ソーシャルワークの価値にもとづく知識・技術を検証し、さらにそれらを専門家のコンピテンスとして身につけるための集団学習およびセルフワークによる学修を行う。 方法としては、実際の事例に対して様々な教育手法により実践理論・アプローチを適用し、参加型授業によって、個人・集団・地域の一定の視点からの多様な事例の事実を観察し、理解し、分析・解釈し、評価するといった段階を経て、ソーシャルワーク実践の一連の流れを体験する。</p> <p><学習目標> 人の人生/生活に着目し、社会的枠組みにおいて福祉的課題を設定し、その科学的視点を身に着けることによって、ソーシャルワークの実践方法を理解し、組織・地域・制度に対して働きかけることができる。ソーシャルワーク理論や展開過程を問題解決に応用する能力として技能や表現を身につけ、多職種に対するコミュニケーションやプレゼンテーション等のマネジメントに役立てることができる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 SWの実践理論概論講義 第 3 回 援助観価値観の理論的変遷、事例による討論 第 4 回 統合理論の流れの概観、事例検討 第 5 回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ロールプレイ 第 6 回 エコシステム理論と時間:空間 エコマップとタイムライン作成 第 7 回 ピンカスミナハンの4つのシステム論、地域における多職種連携を意識したエコマップ作成、組織・地域 第 8 回 GWに関する基礎理論概観、チームアプローチ協働の型 ロールプレイ 第 9 回 グループ力動論、司会の技術 事例検討、ロールプレイ KJ 法によるグループワーク 第 10回 グループワークのロールプレイ 課題に対するプレゼンテーション 第 11回 場の理論、地域福祉と評価手法 第 12回 エンパワメントエバリュエーション法、ワークショップのロールプレイ 第 13回 ソーシャルワークリサーチ、社会調査、介入計画作成 第 14回 ミクロ・メゾ・マクロに展開するソーシャルワークとマネジメント、レポート 第 15回 グループ発表 まとめ レポート作成</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>○指定したテキストや資料や課題を事前に読んで学習し考えておくこと。 ○ディスカッションやロールプレイなど演習形式を多用するので、積極的に参加すること。 ○毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを実施するので、復習しておくこと。 ○毎回の授業終了時に、次回の資料や論文を配布するので読んでおくこと。 ○社会福祉学での基礎的な理論に関する知識を確認しつつ講義する。</p>	
本科目の 関連科目	医療・福祉マネジメント研究科「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の考え方や論文作成の枠組み作成に寄与することができる。なお本科目は「認定社会福祉士」の資格対象科目として認定されている。	
テキスト	相澤讓治 監修『新版・ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ【基礎編】』みらい 2021年	
参考文献	渡部律子『福祉専門職のための統合的・多面的アセスメント』ミネルヴァ書房 2020年 ブトゥリム,Z『ソーシャルワークとは何か』川島書店 1986年 その他 授業中に提示	
成績評価 方法と基準	授業2限に1回ごとのセルフワークによる課題の提出(20%) ディスカッション・ロールプレイへの参加度(20%)、 1日ごと課題レポート3回提出(60%)の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする	